

C.L.ドジスン(ルイス・キャロル)の手紙(4)¹

平 倫 子

チェスナッツ邸, ギルフォード

1875 年 12 月 28 日

拝啓 マクミラン様

きっと、いつになく商業的な手紙だとお感じになるだろうと思ひながらこれを書いています。『アリス』に関する計算書を調べたところ、書店の利益（出版社のそれについては納得しています）の計算が不当であるという驚くべきことがわかりました。私がそういう結論に達した根拠をお見せします。 四万部の売り上げの取引結果は次のとおりです——

一般売りだし（£はポンド, sはシリング, dはペンス）

	1 部につき	1,000部につき
生産コスト	2 s. 5 $\frac{1}{2}$ d.	£122. 18. 4
出版社の利益	5 d.	20. 16. 8
書店の利益	1 s. 5 d.	70. 16. 8
一般割引額	7 d.	29. 3. 4
著者の利益	1 s. 5 $\frac{1}{2}$ d.	56. 5. 0
	6 s. 0 d.	300. 0. 0

トレード・ディナー の売り出し

	1 部につき	1,000部につき
生産コスト	2 s. 5 $\frac{1}{2}$ d.	£122. 18. 4
出版社の利益	4 d.	16. 13. 4
書店の利益	2 s. 0 d.	100. 0. 0
一般割引額	7 d.	29. 3. 4
著者の利益	7 $\frac{1}{2}$ d.	31. 5. 0
	6 s. 0 d.	300. 0. 0

“トレード・ディナー”(書店の代表者が集まる正餐会)についてですが、ある出版社がほかの出版社によって与えられるこの優遇措置は、ほとんど全部著者のポケットから出資されることを、あなたはご存じないでしょう。あなたが認めておられるような割引率にしますと書店は一千部買うごとに、29 ポンドの儲けになります。そのうちの4 ポンドをあなたが出し、25 ポンドを私が出しているのです。あなたは書店主の友人ですから彼の利益をお望みになるでしょうが、私は彼を知りませんしその義務もありませんので言わせていただければ、彼にそんなに多額の贈り物をするに氣乗りがしません。お怒りを買わないことを祈りますが、どうかもう私の本はあのやり方で売らないようお願いします。と私が申すのもあなたの立場を考慮してでもあるのです。書きたいことはまだありますが、あなたの“トレード・ディナー”がいつあるのか知りませんし、そろそろではないかと気になりますので今日これを投函しなければなりません。

敬 具

C.L. ドジスン

追伸：もう一つの問題は、書店に委託する値段を、4 s. 2 d. から 5 s. 2 d. ぐらいに値上げしたいということです。これに関してはもっと詳しい手紙を書くつもりです。そういう値段の変動が、書店に注文を躊躇させて(一般の読者には何も影響がないとしても)、売り上げを減らすことがあるでしょうか。一千部売るかわりに、八百部ぐらいになるのでしょうか？ それとも七百部でしょうか？

チェスナッツ邸、ギルフォード

1875 年 12 月 29 日

拝啓 マクミラン様

さて第二の問題は、通常の売り出しで書店が占める過度の利益のことです。“トレード・ディナー”の法外な利益は別にしても、あなたや私の利益に比べると、一千部売れたときはこうなります。

あなたの利益	20 £. 16 s. 8 d.
--------	------------------

私の利益	56. 5. 0
書店の利益	70. 16. 8

これではあまりに不公平だと思います。彼の利益は三人のうちで一番少なくすべきです。著者は（特に私のことではなく、一般的に）時間のかかるかなりの頭脳労働をします。これはすべてお金に値しますから利益は一番多く見積もられるべきだと思います。出版社も多くの時間と細心の注意（広告その他の面でも）を要しますから、かなりの利益を得るに値します。しかし書店は時間も注意もいりません。店を開け本に投資するだけです——たいていは何を仕入れるか選ぶ苦労もないのです。客が欲しいと思う本を注文するのですから。したがって書店が受けるべき利益は、即金で支払う顧客の通常の 10 パーセントの値引き分で十分です。それが彼のお金に加算されて十分な利益になり、彼はこの同じお金を一年に五、六回も資金として回転させているということを覚えておくべきです。もし出版社が彼に 15 パーセント引きを認可するとしたら、彼は客に 10 パーセント値引きするとして、5 パーセントの純益を年に三から四回手に入れることになります。つまり、彼の資本に年 15～20 パーセントも加算されてゆくののです。これで充分ではありませんか？

でもあなたは 33 パーセント（『アリス』の場合）値引きしていますから、彼は年に数回 23 パーセントの純益をあげることが出来るのです！

ところで彼に 4 s. 2 d. で売る代わりに 21 を 20 と数える計算法で 4 s. にすると、あなたは 5 s. 2 d. で彼に売ることになります、実際には 5 s. 1 d. ですから、その場合の効果はこうなります。

試算計算表(A)

	1 部につき	1,000部につき
印刷その他	2 s. 5 $\frac{1}{2}$ d.	£122. 18. 4
出版社の利益	6	25. 0. 0
書店の利益	4	16. 13. 4
一般割引額	7	29. 3. 4
著者の利益	2 s. 1 $\frac{1}{2}$ d.	106. 5. 0
	6 s. 0 d.	300. 0. 0

しかし、この概算（書店の純益は $6\frac{2}{3}$ パーセント）ではあまりに厳しい削減であるとお考えでしたら、もう少し穏やかな概算も考えました。代金を 4 s. 8 d.（実際には 4 s. $6\frac{1}{2}$ d.）にした場合、

試算計算表(B)

	1 部につき	1,000部につき
印刷その他	2 s. $5\frac{1}{2}$ d.	£122. 18. 4
出版社の利益	$5\frac{1}{2}$ d.	22. 18. 4
書店の利益	$10\frac{1}{2}$ d.	43. 15. 0
一般割引額	7 d.	29. 3. 4
著者の利益	1 s. $7\frac{1}{2}$ d.	81. 5. 0
	6 s. 0 d.	300. 0. 0

これですと書店の純益があなたのそのの倍ちかくなり、私には法外に思われます。でも一年間それを試してやってみていただければ、満足します。それで売り上げがどれほど減るか見るのも興味がありますから。私の利益は比率では $\frac{1}{7\frac{1}{2}}$ 対 $\frac{1}{1\frac{1}{2}}$ 、つまり“39 対 27”あるいは“13 対 9”と減少してゆきますが、この割合で扱う本の量が減るとしても私はそれでかまいません。もし一千三百部売れる度に新しい試算で九百部以上売れば、変えたことで私は勝者になれるのです。

出版社によって書店に認められている法外な割引きによって発生するもう一つの悪弊があります。資本金なしに本を扱おうとする者、つまり公認の 25 パーセントの割引が認められている一般の書店よりもっと安く値を付けるという単なる相場師が出てくる可能性があります。もし書店が 25 パーセント割引をする余裕があるとする、10%で18%受け取る原則では彼は 33%受け取ることになりますから——（“試算(B)”でみるように）25%割引を受ければ、さらに余裕が出るのです。

第三点（『スナーク』²に関する書店への割引率のこと）については、はじめの二つの点についてのあなたのお考えを聞くまで保留にします。これだけは申し上げておきたいのですが、『スナーク』を新しい試算で試すことで同じようなりスクが起こることはないと思います。それが私の最初の本でしたら危ないかも知れませんが。あの場合は、もし書店が割

引が低すぎると反対し本の注文を断れば、おそらく本の売り出し全体が駄目になるでしょうが、今度の場合ですと、たとえ書店の支援がなくなっても、一般の客がそれを買いたいと主張するだろうと思います。彼等は自分の書店で手に入らないとなれば、あなたに直接注文するでしょう。そうすればあなたは、卸売りの利益と同様小売りの利益も手になさるでしょう。事実、もし試してみた結果そうなれば、いっそあなたはイギリス国内のいかなるところへでも郵便料金受取人払いでその本を送ってはいかがか、と提案します。

この問題がどうなるにせよ、私はあなたと協力し、あなたのご意見に従うつもりです。変えて欲しいと提案いたしますのも、私のためであると同様あなたのためでもあるのですから。変えて損を被るのは今まででもらいすぎている書店だけです。

敬 具

C.L. ドジソン

追伸：もし私が「書店の利益と著者の利益」について手紙を公表するとしたら（そういう考えも抱いております）、『アリス』の経緯を具体例としてあげることに反対されますか？

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1875年12月30日

拝啓 マクミラン様

あなたとご家族の皆様にとって新年が幸せでありますように！ お手紙ありがとうございました。今朝受け取りました。書店に対してすこし大袈裟に言い過ぎたかといささか反省しています。わたしの案を変更するための資料も添えて下さり感謝しています。お目にかかってお話するのはいつも楽しいのですがしかし、手紙にもいくつか有利な点があります——後で話題にするとき、単なる記憶ではなく具体的なものが残っているからです。ですからこの問題について、いつかお暇を見て是非簡単に結構ですから、私の思いつきよりもっと根拠のある意見として、私のために書いていただけると有り難いと思います。

『アリス』の支払い条件を上げて欲しいという私の向こう見ずのお願い

はどうやら無理なようですが——『スナーク』については新しい問題ですから私たちはもっと自由に試せると思います。それを3シリングにして、書店には2シリング6ペンスにする、というのはいかがでしょう？（一般的な「21を20とする」やりかたでは、2シリング4ペンスになります。）

敬 具
C.L. ドジソン

チェスナッツ邸，ギルフォード
1876年1月3日

拝啓 マクミラン様

お手紙ありがとうございました。つけ加えてくださった資料は価値あるものと思いますが、一覧表の形でお金を記録するのがどれだけ必要なことなのか私にはよくわかりません。6シリングのうち1シリング5ペンスがそのまま書店にゆくのであろうと、1シリング5ペンスのうち一部が書店へ、一部が家主へ、一部が未払いの客へゆくのだろうと、その結果が著者に大いに影響することには変わりはないのです。書店の出費が彼の収益の10パーセントであるとあなたがおっしゃっておられる意味が私にはよく解りません。この場合で言えば、書店が本を4シリングで買い6シリング（あるいは値引きして5シリング5ペンス）で売るとして、彼が受け取る5s. 5d. の10%ですか？それとも彼が払った1s. 5d. の10%ですか？つまり彼の支出は合計6 $\frac{1}{2}$ ペンスですか？それとも1 $\frac{7}{10}$ ペンスなのですか？

それがどちらを意味するにせよ、このシステムは一般の客が支払う3シリング6ペンス（生産コストの経費に加えて）のうち、たかだか1シリング1 $\frac{1}{2}$ ペンスが著者の収入になるわけですが、それだけでも改善と言えます。

『スナーク』に関して至急決めていただきたい問題があります。私は絵の裏のページに文字を刷らないやり方よりも絵と詩をまぜたほうが良いと考えています。ご覧になってそれでいいかどうかを教えてください。しかしそれですと、絵はすべて（口絵は別として）右側のページに持っていくなくてはなりません。下の二つは詩章の結びの部分を想定したもので

す。これでいいでしょうか？ ページの三分の二が余白になったまま次のページに絵が入りますが。



もう一つの案は（文はあとになりますが）こうです。



絵が詩に割って入ることになりますが、このほうが自然な感じになると思います。この点をどうぞご検討ください。

敬 具

C.L. ドジスン

チェスナッツ邸，ギルフォード

1876年1月17日

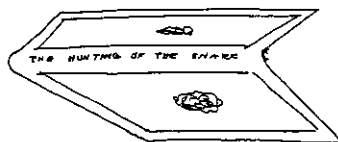
(19日にオックスフォードへ戻ります。)

拝啓 クレイク様³

小切手有り難うございました，署名した領収書をお送りします。『スナーク』は“4月1日に出版の予定”と広告のための覚え書きを書いておいて下さい。あの本を売り出すのにぴったりの日付だと思います。

ホリデイ氏⁴に，もっとあっさりした表紙をいつデザインしてもらえるか聞いていますが，一万枚を作るには時間がかかるでしょうから，表紙の印刷はすぐに始めるほうがいいと思います。色は『アリス』に調和するように赤がいいでしょう。このような薄い本の背にタイトルを入れ

る場合、次の絵のように縦長にするのはどうでしょう？



ホリデイ氏の勧めてくれた濃紺のクロスに“たっぷりした鮮やかな装飾”で試してみたいと思います。

折を見てウォルター・クレインの本を見てくるつもりです。

敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1876年2月3日

拝啓 マクミラン様

質問をもう一度繰り返します。

- (1)あなたは11月12日付けの手紙で「四ページないし二ページもの広告
は、もはや広告とは言えませんね？ “次ページへつづく”のやり方も
あまり感心できない」と言っておられました、あれは『鏡の国』に
広告を差し込むことに反対するという意味でしょうか？
- (2)11月22日付けの手紙でおたずねしたアメリカでの売り出しに関する
問題をどうお考えですか？
- (3)1月15日付けでおたずねした飾りのない表紙のものを、例えば3シリ
ングにして、飾りの付いたものは1シリング高くする、という二種類
を売り出すことをどうお考えですか？
- (4)1月17日付けだったと思いますが、この本を「4月1日に売り出す」
ことは承認していただけますか？
- (5)やはり1月17日付けですが、本の背に入れるタイトルは縦に長くする
のはいかがでしょうか？ その場合活字は普通でいいか、それとも
ホリデイ氏に幻想的な文字をデザインしてもらおうよう頼みましょう
か？

- (6) 1月28日におたずねした、広告に新しい書評の抜粋を使うことについてはいかがでしょう？　ここずっと同じものを使ってきましたから。あなたに選んでいただくための資料をお送りしましょうか？
- (7) 2月1日におたずねしましたが、送っていただいた表紙は、私が寄贈用の本に使っても良いものですか？
- (8) 同じ日の別便でおたずねしましたが、表紙は『アリス』と同じ赤いクロスで出来ているはずですが、金色のところは白かグレーかクリーム色に替えられますか？　替えるとしたら経費はどのくらいでしょうか？

ところで表紙のことですが、金色には『アリス』の赤が一番似合うと思います。ホリデイ氏が推薦してくれたブルーよりずっと魅力があります。ブルーは芸術性の高い大人の詩集にはふさわしいでしょうが、この本は子どものためのものです。私は、黒と金の組み合わせは好みません。澄んだ黒とグレー以外の表紙は好きではありません。黒とグレーならいい組合わせだと思いますし、縁のところで入れ替わっても（そんなことにはならないでしょうが）大丈夫です。ところで、黒人のベルマンが操る黒い帆と雲の形（ほたて貝のような）は、空で雲が変化する様子が、うまくいっていません。



今のところ、赤にクリーム色（埋め込まれた白は汚れるのを防いでくれます）は3シリング、赤に金は4シリングではどうかと考えていますが、いかがでしょう？

クレイ⁵は、2月末より前に印刷してくれるようです。詩はすでに全部活字に組まれています。

敬 具
C.L. ドジソン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1876年2月5日

拝啓 マクミラン様

私からの質問にすべて答えていただき、たいへん有り難うございました。私もあなたの質問にお答えします。私はクレイ商会の手になるものの電気版を、アメリカやそのほかいかなるところへも持ち出すことに強く反対します。『アリス』に関しては、是非ともここで印刷し、同じ料金で発送すべきです。

私は黒とグレーを逆にした案がとても気に入りました。それで試しに作らせたものを見てみたいと思います。私のための二百部は金と赤のものをお願いします。『アリス』にマッチするように製本し、金の装飾のあるものはシリング高くして、本の宣伝に支障をきたさないようにして、書店を通さないでお願いします。『アリス』はクロス製とモロッコ皮製の二種類の値段のものになるわけですが、よろしいですね？ 金には、青より赤のクロスが似合います。

残念ながら、クリーム色の顔料は手に入れるのが非常にむずかしいようです。一週間以内にそれを一トン求む、とあなたが広告を出してもよさそうに思います。しかし黒とグレーは綺麗で申し分なしです。

4月1日発売の広告を出すことを認めて下さったとしても、大衆はそれを四月馬鹿だとは思わないでしょう。その広告をいつ出せばいいでしょうか。私は2月中頃がいいと思いますが、あまり早すぎるとお考えでしたら良いと思われる時期によろしくお願いします。

20日までには確実に絵の木版が出来上がります。九枚のうち七枚は最終の仕上げを残してすでに出来ておりますし、残り二枚は目下製作中です。

背文字のデザインは私からホリデイ氏に頼みましょう。

敬 具

C.L. ドジスン

書評を集めた資料をお送りするつもりです。表紙絵の新しい木版に、今あるような帆柱の前に星がある、という間違いがないことを祈ります！

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1876年2月6日

拝啓 マクミラン様

あなたに選んでいただくための、広告用の書評資料を同封します。二組もいない場合は、一つを新聞その他に載せる広告用、もう一つは『アリス』の最後のページの私の本のリストに加えて使えないでしょうか？

電気版印刷のために、絵は版木で別に刷っておき、あとでしかるべき場所に挿入し、本全体を電気版印刷する必要があるかどうか、お知らせ下さい。版木をそのまま活字の間にいれ電気版印刷して、本にするというまずいやり方ではありませんね？ これでは版木の繊細な彫りの部分は損傷の危険を免れませんから。

一つ提案を思いつきました。本の背のタイトルを縦に入れるとき、本のカヴァー紙にも同じもの（あるいは普通の活字でも）を印刷していただきたいのです。立ててある本の背文字はかなり傾斜をつけた方が読みやすいと思います。こうしておけば、本立てから本を取り出さずに読めますから、本を長くきれいに保つためには良いと思います。

これからは『アリス』や『鏡の国』にも同じようにお願いします。すでに無地のカヴァー紙がついている今あるものを、背文字を印刷したカヴァーに替えるのもいいかも知れませんね？ 一人の一日仕事になるでしょうが、取り替え作業の費用は私が負担します。

THE HUNTING OF THE SNARK

敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1876年2月11日

拝啓 マクミラン様

これは、ホリデイ氏がデザインしてくれた背文字用の二種類の案です。私は、文字の小さい方がいいと思いますが、あなたと製本担当者とのご判断におまかせします。

黒の他に使用できる顔料はありますか？ もしあれば、見本を見せていただきたいと思います。ホリデイ氏は安いほうの表紙の色について一案があるそうです。直接あなたとお話するように伝えておきました。高い方の表紙は絶対に『アリス』の赤と金にこだわっています。

敬 具

C.L. ドジソン

追伸：二ページほどになる序文の原稿をクレイ商会に送るところです。

詩よりも小さめの活字にして、行間をつめ一ページに二十五行から三十行にしてほしいと頼みました。これで何か問題がありましたら、彼等に助言をお願いします。本文より序文のほうがきれいに印刷されている本はあまりいい本に見えません。その逆こそがよいのです。

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1876年3月1日

拝啓 マクミラン様

ご子息のジョージさんによってポリテクニック（総合技術専門学校）から転送された手紙についてですが、私は先日ボイド氏（オックスフォードの方で、『アリス』の中の歌やほかの歌を作曲しました）から、ポリテクニックで私の本を「子どものための教材」にするため絵を使用したいので許可してほしいと言われました——そして、私が彼にどの位“意匠権料”を請求すべきかも尋ねてきました。今までに私は、幻灯機用スライドを公開する許可を与えていますから、そしてもちろんそれには幻灯を展示、公開する権利も含まれますから、私は彼に絵を使っても良いと伝えましたが、私が特定の一人にそのような権利を与えることは出来ない、とも言いそえておきました。（ところで、スライド・メーカーとの打

ち合わせ、交渉、報酬に関する問題などがあつたと思いますが、まだその説明を聞いておりません。あれは 1875 年 1 月、リーズのバーリー・イン・ワーフェデール、サン通りの W.L. プレア氏からの申し込みでした。私はボイド氏に劇か、本の朗読か、どのような催しを計画しておられるのか、訊ねているところです。もう少し詳しくわからなければ許可の出し方がありませんので。彼から連絡があり次第お知らせします。こちらに支払い額などをたずねるケースでは断じてないのですがね！

その後、本のカヴァー紙も絵の校正刷りも届きませんが、彼等はまだ電気版印刷を終えていないのでしょうか？

敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1876 年 3 月 3 日

拝啓 マクミラン様

どんなことがあつても、(木版は) 版本から刷られるべきです。これは、肝に銘じておくべき不変の原理です。そしてもう一つは、発行の日付は印刷や製本その他と何もかわり合いがないということです。

もし必要なら発行を遅らせて下さい。ただし充分時間をとって第一級の作品に仕上げて下さい。どちらかといえばむしろ一年待つて最善をつくしても、一級品にはほど遠いでしょうが。

あの暗い絵はとても具合良く出来たと思います。何が何だかはつきりしないのがあの絵のいいところです。

九枚の校正刷り(今朝無事に届きました)完了しました。

“逆にした”グレーと黒の表紙の見本、決定する前に見ておきたいと思っています。

4 月 1 日までに発行できる見込みでしたら、どうぞそのように広告を出して下さい。

敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

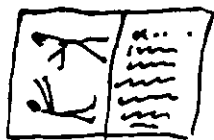
1876 年 3 月 12 日

拝啓 マクミラン様

多分あなたは私の手紙を読み違えておられるのではないかと思います。私は“校正刷り”をもっと欲しいと言ったのではなく（ただしタイトル・ページは別です。それはたった今到着しましたが、「至急」と書いて今日返送します），“好機とみたらなるべく早く増刷を”お願いしたいと言ったのでした。それからこれは自分の満足のためですが、シート（平版）が刷り上がるごとに一枚ずつ郵送していただくというのは、手間がかかりますか？

“不測の事態のもとで私たちに出来るか、出来ないかを問い合わせること”とあなたが言っておられることに当惑しています。“不測の事態”を考えずにはっきり申し上げたかったのは、急いで失敗しないよう注意して欲しいと言う意味で、すべてを徹底的に良くすることが発行の日付より重要なことは申すまでもありません。

“横組みの” 絵（すべて左側のページに入る）は、このように内向きにするべきだと思います。



と言っても、先日ある本で“横組み”の絵が外向きに配置されていたのを見ました。

敬 具

C.L. ドジスン

追・追伸 ママ 考えなおして、タイトル・ページの正しい校正をお送りします。それを、次の校正刷りが出来上がったとき、つき合わせて点検して下さいようお願いします。こちらに送る時間の節約にもなります。

『献辞』に関しては、本当にかっかりしています。彼等は一箇所訂正するのに必ずほかの一部を台無しにしています。句読点を直してもらいたい校正を返送したと思ったら、次に来た校正刷りでは三語全部が消えていました！ やり直した校正刷りが出来てきたときには、どうぞあなたも虫眼鏡で調べ、新たな間違いが起きていないかどうか点検して下さい。

印刷する上での“スペーシング”の問題については、クレイ商会は満足できません。彼等は離しすぎたり、付けすぎて文字がくっついてしまいそうになったりです。おそらく最初の製版を見習いか“活字の字間をそろえること”に慣れていない者に組ませるのだと思います——作者がこんなに細かい注意をはらいながら校正をしなければならないのは実に面倒です。

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1876年3月17日

拝啓 マクミラン様

友人が大変賢明な提案をしてくれました。もし「グレーと黒」の『スナーク』の中に、「赤と金」のものは1シリング高くなります、という広告が出ていたなら、誰もその本をプレゼント用に買わないでしょう。手にした本が自分を買えるものより安い本である、と書いてあるものなど誰だっていいとは思いませんから。この問題は、本の最後の余白のページに広告を出せば避けられます。——でも一番良い方法は「赤と金」の本の広告は新聞紙上だけに載せ、「グレーと黒」の本には載せないのです。こんな広告は出来ないものでしょうか。「外側のデザインが金のもの——クロス製は4シリング6ペンス、モロッコ皮製は一／一、ヴェラム皮製は一／一。」

私たちは4月1日にむけて見事に頑張っていますね。絵が完全に出来上がっていないのが気がかりです。あるいはシートを急いで乾かしてはいないか、日付けに遅れまいとするあまり何か問題が起きていないか。

どうか、4月9日ぐらいまでなら遅れても構わない、ということをお忘れなく。

ホリデイ氏が表紙に選んでくれた緑がかった青は業界では何色という

のですか？ あの色で個人用に何部か頼みたい時、名前を知っていたほうが便利だと思いますので。

敬 具
C.L. ドジソン

追伸：ルートリッジ社（からの要請）のことですが——私たちの意見が一致するとは思いません。あなたには出版社としての見解がありますから、（断れば）本の売りが下がるとお考えになると思います。しかし私は、この件に関して何も心配してはおりません。私の詩が立派な「伝承童謡」の詩集に入れられることについては、すぐれた作品にのみあたえられるこんな待遇を私は今まで考えたこともありませんでした。一方、それ相当のものを集めた「良い」詩選集に入れられることを私の方では望んでいます。でももしあなたが、ルートリッジ社への問い合わせを躊躇なさるのでしたら、私から手紙を書くことにします。それらの詩はすでに『十九世紀の滑稽詩』⁶に入っているものです。

3月1日におたずねした幻灯用スライドの件についてのご返事もどうぞよろしくお願いします。

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1876年3月21日

拝啓 マクミラン様

失礼ながら、私の手紙に答えて下さるとき、あなたは私の手紙を前にしておいでではないのですね……そうでなければまだ答えていない質問や、おなじ答の繰り返しなどに気づかれる筈です。

私の質問は、ホリデー氏が『スナーク』のために選んだ青色の業界用語でした。たまに、その色で注文したくなるかも知れませんが。ローソクの明かりではどちらか区別できない位これに良く似た緑色、この前見本として送って下さったあの色ですが、その正しい呼び名を教えてください。

念のため、その二つの色の表紙を二枚お送りしますが、済みましたら是非そのまま送り返して下さい。正しい呼び名がわかるまで、便宜上“濃

い青”と“濃い緑”としておきます。

以下に、四種の色とりどりの表紙のリストをお送りしますが、これらは私個人用に製本していただくためのものです。

百部 「赤と金」(前後の表紙とも金で装飾して)

二十部 「濃い青と金」

二十部 「濃い緑と金」

二部 「白ヴェラム皮と金」

芸術家肌の友人が、最後の二部の小口は「純金」にすべきだと提案してくれました。この言葉はご存じですか？

アップルトン社のことについて、私たちはアメリカでの売り出しの取り決めは済んでいる、と書きました。私は電気版印刷したものを先方に売りたくないの、それについてはこれ以上何もしたいとは思いません。もし彼等が海賊版で出すようなことがあっても、それは私のせいではありません。そんなことあり得ませんね？ 彼等が調達する前に、もしもあなたが安く大量に(どうぞ損をなさらない程度に)送ってしまったはどうでしょう。

マクミラン社は「デイリー・ペイパーズ」紙には広告をお出しにならないのですか？ あまり倏約なさらないようお願いします。『スナーク』のことを地方の書店が耳にする前に本が出てしまうのではないかと心配しています。

敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ, オックスフォード

1876年3月26日

拝啓 マクミラン様

この手紙に同封した校正に目を通していただく時間がありましたら、是非そうしていただきたいのですが、もしそれがかなわなければ、この校正は終わっていますので、欄外のマージンが等しくなるように紙をカットするよう伝えていただき、あとはあなたにゆだねます。これを光に透かしてご覧になると一ページ目と二ページ目のマージンがあわないことがお分かりになるでしょう。これは印刷の時点で彼等がそろえな

かったためです。

これを新しい本の一冊づつに差し込むのに十分な数だけ注文して下さい。四月の終わりに発行予定の二冊の『アリス』にも同様に入れます(イースターが過ぎても葉のさし込みを止める必要はありません) ので数百枚は余分をお願いします。⁷

「赤」五十部、「青」二十部、「緑」二十部、「ヴェラム」二部が出来上がり私が署名できるのはいつ頃になりますか？ もし二冊の「ヴェラム」が最初に出来るようでしたら、私宛に送って下さると大変嬉しいですよ——その二冊はなるべく早く送りたいと思っていますから。もしあなたが送って下さるのなら、それらと一緒に別の色の二冊の本も入れていただきたいのです。もし「ヴェラム」が他のものより遅れるようでしたら、私がそちらに出向いて署名をします。いつ頃出来上がるか教えていただければ、いつでも参ります——それも早いほうがいいのです。 昨日の「サタデー」紙、「スペクテイター」紙、「アシニウム」紙の広告を見ましたが、見あたりませんでした。急いで見落としたのかも知れません。きっと巧妙に隠れていたのかもしれない。

敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1876年5月12日

拝啓 クレイク様

第一に、廉価版の『アリス』はきっぱりおやめになったのですか？ 私は4月8日にマクミラン氏から、2シリング版の検討にとりかかるつもり、と伺いましたがそれ以後は何も聞いておりません。

第二に、あなたとマクミラン氏への提案です。前にも申し上げたのですが、『ファンタズマゴリア』⁸の滑稽詩の部分再版するという思いつきです。考えていただきたいポイントを以下にまとめました。

(1)『スナーク』が世に出てしばらくたつたいま、友人たちや、特に「スタンダード」紙の書評などに力づけられたこともあって、『ファンタズマゴリア』の挿し絵画家としてホリデー氏はどうかをお二人に判断していただきたいのです。

(2)もし彼が最適だと言うことになれば、重要な商業的な問題に直面します。挿し絵にもとづいて割り付けをすることがどれだけ賢明なことかということです。私はどれだけうまくいくかを、こまごま気にしているわけではありません。二年で元が取れ、そのあといくらかでも利益が得られるなら満足です。この問題を始めるにあたり、一つの希望的なケースを考えてみました。一千部で 50 ポンド私の手元に入るような値段にして、五千部売れると期待しますと、その場合絵のために 200 ポンドの余裕ができます (£100 は画家に、£100 は彫り師に)、たぶん絵は十二枚か、小さければもっと多くなるでしょう。『鏡の国』のときのような五十枚もの余裕はありません。この計算は推測にすぎませんが、ホリデー氏に交渉する前にある程度こちらの意向をはっきりさせておきたいのです。

(3)『アリス』のサイズと同じではいかがでしょうか？

(4)『ファンタズマゴリア』の表紙のための版木はまだいい状態にあるので、それを新しい版に利用する、というのはどうでしょう？

敬 具

C.L. ドジスン

『スナーク』や『アリス』に「イースターの挨拶」をはさむのを、5月の終わりまでは続けてください。

4月25日に「イースターの挨拶」一千部を、C.A. オウエン氏のところへ送るよう注文しましたが、もう送ってありますか？

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1876年5月18日

拝啓 クレイク様

求めがあれば、「イースターの挨拶」をそれだけで売る用意をしてください。どうしてそうしないのかと聞かれましたが、私には反対する理由はありません。いくらにするかはあなたのほうが良くご存じだと思います。私は損も得もしたくない、ということだけ言っておきます。次の三つの金額を合計しなければいけないでしょう。(1)印刷代、(2)郵送料に十分なマージン、(3)もし10%の委託料をのぞむなら(1)と(2)の合計の $\frac{1}{9}$ 。

それ以上高くないようにお願いします。

わたしの質問への回答ありがとうございました。しかしヘンリー・ホリデイ氏に関する質問は、あなたが彼の絵は大眾を引きつけるとお考えだとしても、それほど商売のからむ性質のものではありません。あなたが送ってくださった見本のページは、私が4月6日にマクミラン氏にお送りしたまさにそのものです。つまり一ページが二十九行のものです。『アリス』は二十二行ですから、4月6日に私は彼にそれらの中間くらいの一ページ二十五行の見本を刷っていただくようお願いしたのでした。それくらいがいいと思います。一ページ二十九行の活字は子どもが楽に読むには小さすぎると思いましたので。私が2シリングと言った値段も、絶対的なものではありません。2シリング6ペンスでも十分安いのです。それほど劣ったものを作るわけではないのですから。

「イースターの挨拶」をもう二百部送ってください。

『スナーク』の書評の載った「インヴァネス・クーリエ」紙を送っていただきありがとうございました。

敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1876年10月30日

拝啓 クレイク様

お手紙とこの年度の満足すべき計算書とを、どうも有り難うございました。われわれは、廉価版『アリス』の出版については延期したほうがいいと思います。そうする理由の一つは、病院などに寄付する本を作りたいからです。なんと言っても新しく活字を組むことなしに安く出来るわけですから。どの程度安く出来るのか見積もってみて下さい。安くても薄すぎない紙で『アリス』と『鏡の国』を五百部づつ欲しいのです——小口の金も表紙の飾りもなしにして、でも表紙は簡単にバラバラにならないようにしっかり作って、むしろ楽しく華やかなほうがいいと思います。子どもの目を楽しませるほうをとるか、コストの安さをとるか、どちらでしょう？ 安い絵本にもとても表紙が美しいものがありますね。

ページの小口は汚れやすいので、白ではないほうがいいと思います。

マーブルがけは金よりもずっと安上がりですか？

敬 具
C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1876 年 11 月 22 日

拝啓 クレイク様

いくつか重要なことをしたためます。

- (1) 計算書を良く見直しましたら、訂正すべき事項がいくつかみつかりました：

アメリカで売った『アリス』について、差引勘定は私の £3. 10 s. の借りになっていますが、これは“総括項目”に入れられるべきです。

アメリカで売った『鏡の国』のほうも、報告書にあるような私の £18. 11 s. 11 d. の貸しとそれに続く £27. 7. 5 の借り（つまり私の £8. 15. 6 の借り）ではなく、一年通して見た場合私の £3. 11. 7. の借りになります。

この訂正の結果“総括項目”は £632. 3. 8 ではなく £606. 10. 2 となり、1877 年 1 月に私が受ける額も当然変わってきます。

この会計書類を同封しますが、ご覧になったらまたこちらにご返送下さい。

- (2) どうかもうこれ以上フランス語、ドイツ語、イタリア語の『アリス』の広告はしない、という覚え書きを作っておいて下さい。きっとあなたは、広告なしでは売れないだろうとおっしゃるでしょう。でも私の答えはこうです。「年間収入に穴をあけてまで売る必要はありません。お金に関しては、マイナスよりもゼロのほうがましなのです！」

- (3) どうかアメリカやその他のところで『行列式』⁹を 7 s. 6 d. よりも安くは売らない、という覚え書きもお願いします。残っているものをそれ以上で売るのはかまいませんが、生産コストが一部につき 8 s. 以上したものを 2 s. 6 d. で売るなどあまりに馬鹿げています！ 残っているうちの十部を私に送って下さい。あとの十七部でおそらく 1900 年まで十分間に合うでしょう。

- (4) あなたが「イースターの挨拶」をそれだけで流通させないのを不思議

に思います。それなら、どうやって売っておつもりですか？（私は“生産コストで売る”ことを言っているのです。）ある女性の友達が、私に売り出しを主張すべきだとすすめるのですが、需要があると思うのは彼女の幻想にすぎないのか、とも思いはじめました。

敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1876 年 11 月 25 日

拝啓 クレイク様

私はあなたが“リスクばかりで儲けは半分”の計画と言われる意味が良くわかります。しかし私たちが手がけていることとそれとは違います。収支決算をご覧になれば、私は純益の四分の三をもらうことになっているのはお分かりでしょう。こういう状況の下であなたがリスクをすべて引き受けるとは理解してはいませんでした。もしもこれ以上の利益が見込めないとすれば、次年度に繰りこす“差し引きの借り”は、私があなたに借りているものとして残ります。この場合あなたが損失を負担することはわかっています。しかし実際にこのようなケースは起こり得ないでしょうから、予防策を講じるには及びません。

年末に収支決算をするように、という私の提案を取り下げます。どうぞあの会計書類をお返し下さい。すべてもとに戻すことにします。書類が未整理でもかまいません——あれは私の手落ちですから。

結局は収支決算をいつするとしても、結果は殆ど同じだと思います。私のほうが“儲けがない”可能性が高いというあなたの暗い予想は、もしつねに一年が終わる前に増刷するとして、どの版も前の版より数が多ければ的中するでしょう。もし同じ部数だったら、同一組版の生産コストよりも純益が大きければ（そうでなければならぬのですが）問題はなくなるでしょう。再版の生産コストと純益がつりあうかどうか、あるいはつぎの再版（“年間収支決算”方式では）のつりあいはどうか、は問題ないのです。どちらの場合も分けられるべき明らかな純益があるのですから。

どうぞ、挿し絵の入っている本に目配りをお願いします。もしテニエ

ルに匹敵するような画家を見つけたら、どうぞ知らせて下さい。私から書く力が衰えないうちに、是非もう一冊子どもの本を書きたくて仕方がないのです。衷心より。

敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1877 年 2 月 4 日

拝啓 マクミラン様

ある友人が報告してくれたのですが、『鏡の国』は絶版、というのは本当ですか？ もしそうだとすると、何が起きたのですか？ おそらく、新しい三千部を手にする前に、在庫分をゆっくり出せばいいと再版の責任者の誰かが不注意をしたに違いありませんね？ 今は“絶版”にしても、クリスマス・シーズンには売り出しの好機を逃すことになると思うのですが。

クリスマス・シーズンのあいだ『スナーク』の売り上げはどうでしたか？ 出版直後の売り上げ状況よりも、クリスマス・シーズンの売り上げ如何でその本が成功したか、失敗したかの判断が下せます。私は今のところ、成功なのか失敗なのか、全く見当が付きません。あちこちで子ども達がこの本を好んでくれていると聞いてはいますが——いくつか書評を見ましたが、こき下ろすような言葉はありませんでした。

アデルフィ劇場の「子どものパントマイム」というとても面白い出しものを見に、おたくの若い方（あるいは若い“方たち”——オリーズはまだ若いおつものようだから）をつれていらっしゃいませんか？

敬 具

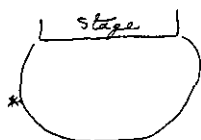
C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1877 年 3 月 2 日

拝啓 マクミラン様

面倒なお願いで恐縮ですが、土曜日（10 日）午後のアデルフィ劇場のパントマイムのチケットを四枚取っていただきたいのです。



二階正面席の最前列で、*印をつけた付近の席を希望します。二枚は十二歳以下の子どもですので半額です。

敬 具
C.L. ドジソン

劇場に着くのが開演まぎわですので、もし席がまとまって確保できなければ、平土間席の真ん中二列目か三列目をお願いします。子どもには平土間席は見にくいかもしれません。

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1877 年 3 月 26 日

拝啓 マクミラン様

エグゼター・ホールの「メサイア」のチケットを取っていただき有り難うございました。もしお店の誰かを使いに出してアデルフィの分もふくめてチケットを取りに行ってもらえただけると有り難いのですが。1 シリングの駄賃を立て替えて、私のつけにしておいて下さい。もしご子息がそれをして下さるのでしたら、1 シリングはとりさげます！

『アリス』に関して、読者がそれに支払ったお金の配分がどうなっているかという流通にかかわる疑問があります。それに答えるのは商売上の秘密に触れる、とおっしゃるのなら何も言いませんが……どうか弁解しようのない好奇心のなせる業とだけはお考えになりませんように。

ある人が、出版社は“印刷と製本”にお金がかかるけれども、印刷屋にその合計額を払わず委託料として彼等のもとに残している、と教えてくれました。もしそれが慣例ならば、そのような取り決めでも一言も反対出来ません。しかし私の疑問は、もし印刷代、製本代、広告代の合計が、実際に払った合計を超えた場合、超過分のパーセンテージはどうなるのか、同じように、満たない場合不足分のパーセンテージはどうなる

のか、という点です。こんなことを申し上げるのも、一冊6シリングする本の印刷代、書店への支払い分等々、正確な比率を是非とも知りたいと思う気持ちからです。

敬 具

C.L. ドジソン

チェスナッツ邸、ギルフォード

1877年3月30日

拝啓 クレイク様

委託料と比率について十分な説明をして下さり、有り難うございました。大変満足しております。

まだ時期尚早かとは思いますが（今はまだ何もしておらず、立ち消えになるかもしれないのですが、あなたがた抜きには出来ないことですので）一寸お話ししておきたいと思います。『ファンタズマゴリア』の挿し絵は結局サンボーン氏に依頼出来るかも知れません。

そのために彼はこれから「ラング・クーティン」の詩のために四、五枚の絵を描いてくれるそうです。それでそのページの見本を『アリス』のサイズで刷っていただきたいのです。活字は一ページに五連ぐらいがいいと思います。四連では広がりすぎるような気がします。『スナーク』は、一行が長く折り返す行もありましたので、一ページ三連にしましたが、四連のものと五連のものと二種類の見本を、同じ活字で（五連のほうは少しつめて）お願いします。もし商売にならず出版は出来ないとしても、友人に贈るために「ラング・クーティン」を挿し絵入りで印刷しておきたいと思っています。

敬 具

C.L. ドジソン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1877年5月1日

拝啓 マクミラン様

一つ私からお願いがあります。友人のハッチ夫人が、「未熟ながら書いてみた」という小説の原稿を検討していただきたいのです。おたくの「読

者の方々」にもぜひ検討していただきたいと思います。読んでいただいたら感想をぜひお聞かせ下さい。出版に適していて請け負って下さるようでしたら、時期など「全体的なアドバイス」をお願いします。

いいものかどうかあなたのご判断をあおぎたいのです。実は時間はあるのですが、私はまだ読んでいないのです。原稿は運送業者にとどけさせます。

敬 具
C.L. ドジソン

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1877 年 11 月 4 日

拝啓 マクミラン様

病院に寄付するための版はタイトル・ページを二枚にしたいと思っていることをお知らせしていませんでした。やや小さめの題字がいいと思います。それぞれ二百部ずつでいいでしょう。そのうち百五十部ずつを一度に欲しいのです。残りは将来寄付するためにとっておきます。製本の見本が出来ましたら、どうぞなるべく早く送って下さい。小口はどうしたらよいでしょう——私の考えは“赤のバラがけ小口”です。

ユークリッド幾何学の本は満足のゆく結論が見つからず、思ったより難航しそうです。原稿の一部は印刷屋のほうに回してありますが、その分を今月の終わりまでに棒組みゲラにさせていただきませんか。クリスマス休暇を推敲とページ割り付けにあて、1 月末までには印刷にかかれるようにしたいと思います。同僚の教師は、クリスマス旅行のあとで教師が全員そろそろ 2 月が出版の好機だと言っています。あるいはイースター旅行のはじまる直前でもいいかもしれません。いかがでしょう？

敬 具
C.L. ドジソン

追伸 その本は百五十ページから二百ページのあいだくらいにするつもりです。

クライスト・チャーチ, オックスフォード

1877 年 12 月 11 日

拝啓 マクミラン様

(ブライトンで「妖精の国のアリス」を舞台公演している)「エリストン・ファミリー」一座というのは、パントマイム専門の「グロースター・ロイヤル・シアター」です。異存がなければ、『アリス』の出版社としてあなたからエリストン夫人に、訴訟などと脅さずに、この本の上演権はこちらが保持していること、またどこで歌詞台本を入手したかを問い合わせただけませんか？ もし応じなければ訴訟も辞さない覚悟です。

切手をはった返信用封筒をお入れになったほうがいいと思います。

あなたのお名前だけになさるか、それとも「作者の命により」とつけ加えるか、どちらがよいでしょう？

敬 具

C.L. ドジスン

追伸 病院用の本はどうなっていますか？

クライスト・チャーチ, オックスフォード

1877 年 12 月 15 日

拝啓 マクミラン様

病院用の『アリス』と『鏡の国』の見本たった今到着しました。製本もパラがけ小口もとても素晴らしく出来ています。どうか次の諸点にご留意願います。

- (1) 献詞の「病める子どもたちへの贈り物」は表紙と同じようにタイトル・ページにも入れるように。表紙にあるのはそれでいいのですが、見にくいのと製本し直したときに消えてしまいますので。まして市場に出回る本は安全性を考えて是非タイトル・ページにもそれを入れるべきだと考えます。もしタイトル・ページに献詞を入れないうちに印刷が済んでしまっていたら、小さな枠のなかにその言葉をいれてスタンプにして一冊づつタイトル・ページに押す方法でもいいと思います。二種類のタイトル・ページを送って下さい。いいと思う方を返送します。
- (2) 必要な部数を少なく見積もっていました。それぞれ三百部ずつ用意し

て下さい。

(3)製本するとき、広告のページは削除して下さい。

(4)これらの本は非売品ですから、どこかで市販用の本と混ざってしまう危険を防ぐため、すべて私が保管することにします。

(5)もし本の背をもっとしっかり綴じ合わせるために、あなたと製本担当者がもっといい方法を考案してくださるととても嬉しいです。表紙をつけた本の背の内側がとても硬いのです。子どもの手ですり減ったり破かれたりするのを避けるため、硬くする必要がありますが、背を皮にして表紙を布にすれば丈夫になってばらばらになることも少ないかもしれません。

病院用の本がうまくいき、心から感謝しています。

『ユークリッド』¹⁰のタイトル・ページの一番新しい案を同封します。承認していただけますように。私としてはかなりよい出来だと思っています。「ワールド」誌と「フィガロ」誌が、私が「ユークリッドを戯画化」していると宣伝しているそうです。(あんなに偉大な数学者の名誉を傷つけることなど誰にも出来はしません!) 反論する価値もないと思っています。

劇上演の著作権のことで質問があります。登録は三年前に済んでいる、とあなたがおっしゃったので、そのへんの日記や手紙をさがし一時間かかってやっと見つけました。1872年の終わりでした。二冊の原稿本を持って書籍出版業組合事務所に行っています(あなたと一緒に行って下さらなかった)。以下はそのときの証拠資料の写しです。

“著作権登録、

書籍出版業組合事務所。

No.3251

二種 英語 登録 10 s.

1872年12月12日”

署名もありますが判読できません。

登録してあれば、私の作品のドラマ化の著作権は保証され、誰かが私の本のドラマ化をするのを防ぐ決定的な権利も保証される、という点にもしあなたが疑問をお持ちなら、その点について専門家の意見を参考にして言いますと、一つはとても明瞭なことです——あなたも言われた

ように、ドラマの“出版や売り出し”の禁止です。多くのドラマは印刷して売り出されるのではなく台本原稿で上演されますが、著作権問題は当然問われます。

誰が責任をとってくれるかわかりませんが、セント・ニコラス・マガジン誌(ニューヨークのスクリブナー社)の12月号の最後のところに肝をつぶすような声明文でも載せましょうか？

“ニューヨークのボンド・ストリート22番地、マクミラン株式会社”発行のブックリストに“『不思議の国のアリスの冒険』十萬部、『鏡の国』五千部突破」とあるのを見ました。まさかあなたと同名の方が『アリス』のアメリカでの再版本を売っているのではないでしょうね？ それに『鏡の国』はあちらでは増刷されていないはずですよ。あんな不誠実な広告の最後に“マクミラン”という名前があるのを見てとても残念に思いました。

あなたと奥様、マーガレット嬢、オリーヴ嬢に季節のご挨拶を！

敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1877年12月18日

拝啓マクミラン様

お手紙有り難うございました。

あなたが病院用の『アリス』の“補強版”の製本を始められる前にそれを一部送って下さいませんか(22日にギルフォードのチェスナッツ邸へ行きます)。クロス装にするかどうか思案中ですが、むしろ背を皮にしたい気分です。

『ユークリッド』はまだ満足できない状態ですので、イースターまでに出来るかどうかわかりません。主題が入り組んでいるので慎重に考えなくてはなりません。まだ何もなさらないで下さい。それから、「ワールド」誌はほっておきましょう。広告を出すとき、タイトルに少し説明をつければ、連中もふざけた本ではないということに気づくでしょう。

著作権の問題には法律上の判断を下すつもりです。

おたくのメリーちゃんにとっても逢いたいです。でも彼女だけがあなた

のご家族の魅力の中心ではありません。私の子どもを見る目は最近少し変わって、今は一番好きな年齢は十七歳です！

敬 具
C.L. ドジソン

【注】

- (1) これは、北星論集（文学部）第 30 号（1993）、第 32 号（1995）、第 33 号（1996）に続くもので、C.L. ドジソンがマクミラン社の社主 Alexander Macmillan に宛てた手紙の翻訳である。（© The Trustees of the Estate of Rev. C.L. Dodgson. なお翻訳にあたり 1994 年、遺産管理者の Philip Dodgson Jaques 氏の許可を得た。）
- (2) *Hunting of the Snark* (1876), Illustrated by Henry Holiday.
- (3) マクミラン社の George Lillie Craik.
- (4) 『スナーク狩り』の挿し絵画家 Henry Holiday.
- (5) 印刷業クレイ商会の Richard Clay.
- (6) *The Comic Poets of the Nineteenth Century*, ed. by William Davenport Adams, Routledge, 1876.
- (7) *An Easter Greeting To Every Child Who Loves "Alice"*.
『スナーク狩り』を 4 月に出版する機をとらえて、その本にはさんだ四ページの葉。
- (8) *Phantasmagoria* (1869), 二部からなる詩集で、第一部は十三篇の滑稽詩、第二部は十三篇の真面目な詩。
- (9) *Elementary Treatise on Determinants* (1867), 『行列式の基礎理論』。
- (10) *Euclid and his Modern Rivals* (1879), 『ユークリッドと現代の好敵手たち』。